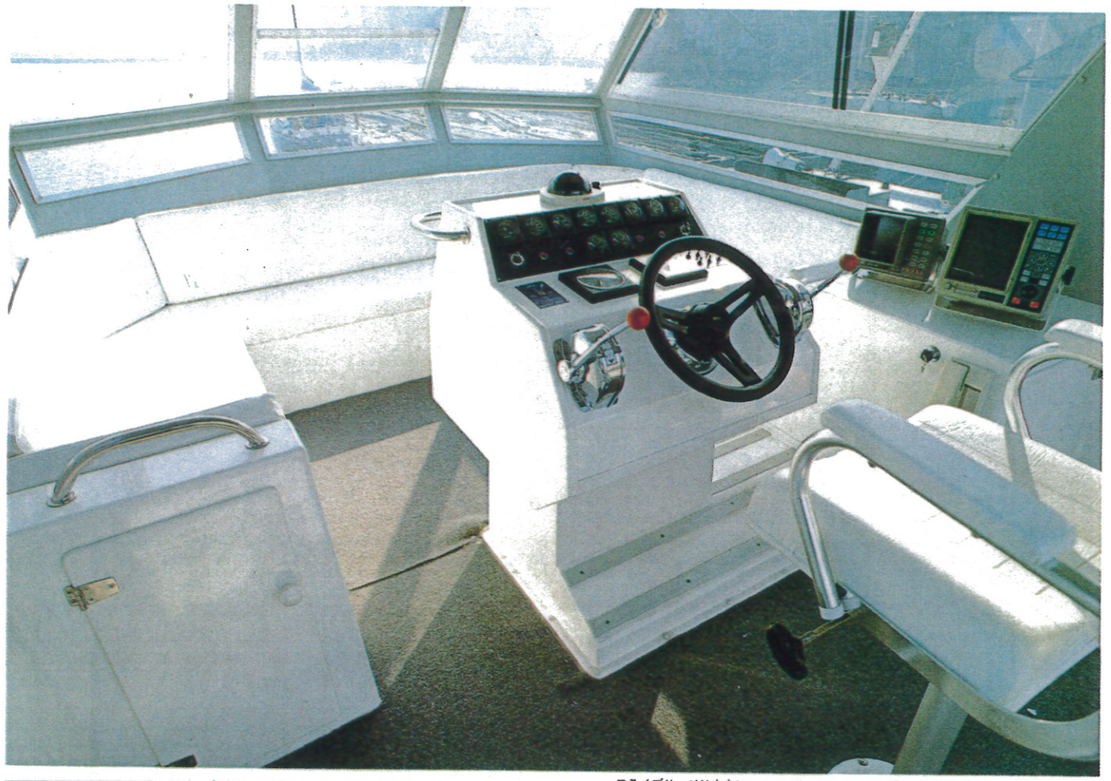
MOTORBOAT SUPER IMPRESSION 1992
MIDDLE SIZE BOAT



フライブリッジは中央にヘルムステーション、バウ寄りにラウンジシートが配されている。

ブラックで統一されたインパネ回り。視認性は良好。

高く伸びやかなフォルムは精悍だ。

びた艇体のため、過度のローリングをしないかということである。インプレッション当日は微風であったため、どれくらいの風でどの程度ローリングするかということは残念ながら計測できなかったが、気になる箇所である。

アフトデッキはチーク張り（オプション）でスペースは奥行×横幅／3・60m×3・25mと広々としており、全長の約1/3のスペースを有する。これだけ広ければスポーツフィッシングでの激しいファイトも可能だろう。さらにデッキのハッチを開けると、フィッシングタックルからフェンダー等たっぷりと収納できるスペースが出現する。実際にインプレッションでは一般的にこのクラスで使われている大きさのフェンダー8個を収納した。これはエンジンが艇体中央に搭載されているために可能となったものである。デッキからガンネルまでの高さは0・65mと安全性

常に安定した走航姿勢を見せる。

プロフィール

建造元のステバークラフト社はオーストラリア、シドニーから600km北東に位置するタリーという町に工場を持つ、同国老舗ビルダーの一つである。初めてFRP船を手掛けたのは1959年で、これまでに150艇余りの建造実績を持つ。同社の建造体制は受注生産方式で年間50艇余り。細かな部品等もすべて自社製で、万一の故障やトラブルにも迅速な対応でユーザーをサポートしていることが伺える。常に高品質へのこだわりを見せている。

そして今回ご紹介する41フィートモデルは1984年に、オーストラリア・ボーティング・インダストリー・アソシエーションから優秀賞に選ばれた実績を持ち、以来同社の主力モデルとして高い人気を保持している。ラインアップは33フィートから52フィートまで7艇種を揃え、すべてがFB艇である。さらに今年は新たに47、52フィートの2モデルが加わる予定である。

独特なフライブリッジ

主力モデルであるステバークラフト41エクスプレスモータークルーザーのボディは全長×全幅×全深／12・50m×4・10m×1・00mで、総トン数は16tとなっている。デザイン上の大きな特徴は、ハードトップと強化ガラスで四方を囲まれたフライブリッジである。上方向に伸びたフォルムは全高で5mの高さを有しツナタワーを装着したように精悍な雰囲気を持つ。まずは外観上の最大のポイントであるフライブリッジ（以下FBと省略）の機能性を検証していこう。

FB艇の最大の特徴はオープンボート並みの爽快さが味わえるということだ。クルージング中、ゲスト達の人気はこの場に集中し誰もが開放的なポーティングを楽しむことができる。もっともこうした楽しみかたができるのは限られた期間であり、冬場の操船は多くのFB艇が持つロワーのヘルムステーションとなる。しかしステバークラフト41エクスプレスモータークルーザーに搭載されているFBはオールシーズンでの操船を可能にした。このFBはハードトップ、そしてフロントと両サイドが強化ガラスで、ドライバーズシートの背面はビニールシートでクローズされているのだ。このエリアにはドライバーズシートと約8名分のコの字型ラウンジシートが配されており、多くのゲストが集えるスペースとなっている。ハードトップまでのヘッドクリアランスは余裕の1・95mを確保。インパネには各種計器類がマウントされ、ロワーのそれよりも充実しており、ここがメインのヘルムステーションであることを強調している。

仕切られた空間では快適性、爽快感はどうしても損なわれる。そこでフロントと両サイドを囲んだガラスウインドウを開閉式にし、風を受けてのポーティングを可能とした。さらに採光性にも配慮している。開放感にはやや欠けるがオールシーズンFBで操船できるのは魅力である。ただここで問題となるのは、高く伸